

避難所における【合理的な配慮】のお願い

(自閉症スペクトラム、発達障害、知的障害)

- 見た目ではわからない障害です。人により困っていること、必要な支援にも違いがあります。
 - 言葉を普通に話せる人もいますが、伝わりにくいことや、会話が難しい人もいます。
 - 慣れない環境に弱く、非常に辛く我慢できないような思いをしている人もいます。
 - 障害なのか個性なのか、境目がはっきりしません。
 - 本人が、必要な支援を上手に説明できない場合もあります。
 - 困っている様子が感じられる方には、「何かお困りですか」など、優しく声をかけて見てください。声掛けに対する、ご本人の返事の様子で、困っていることをご判断ください。
- 説明をする上での配慮
 - 沢山の人を対象と一緒に説明をする方法では、よく理解できないことがあります
 - 「個別に」「ゆっくりと」「項目を一つずつ分けて」「短い言葉で」「穏やかに」本人が理解できているかどうか感じ取りながら、お話をしてください。
 - 視覚的にわかるような説明（実物、写真、図、指差し、ジェスチャーなど）をしていただくと伝わりやすくなります。
 - 本人のことをよく知っている方がいらっしゃれば、その方を通じて説明をお願いします。
 - 紙に書かれたものなどを見ながらお話をしていただくと伝わりやすいことがあります。
- 過ごす場所についての配慮
 - 知らない人の中にいることや、騒がしい部屋では、辛くて不安になりやすい人が多いので、できるだけ静かな部屋や衝立などで仕切りをしていただくと安心して過ごしやすいです。
- 興奮してしまった方への配慮
 - 静かで落ち着ける場所へご案内ください。落ち着くまではあまり言葉をかけずに落ち着いてから穏やかに話を聞いてあげてください。ご本人と信頼関係のある方がおられれば、その方に対応をお願いしてみてください。
- 説明に使う紙や掲示物を作る場合の配慮
 - 写真、絵、イラストなどをつけて、短くわかりやすい言葉で書いてください。この際、難しい漢字を使わないようにしてください。

各障害についての簡単な説明

- 自閉症スペクトラム（広汎性発達障害、アスペルガー症候群などを含む）

他の人の立場にたって考えることが苦手で、抽象的なことや複雑な表現の理解が苦手です。また、得意な事と苦手な事の差が大きなことも特徴です。これらの特性から言葉を普通に話せる方でも、コミュニケーションが難しいことがあります。知的障害を併せ持つ人もいます。
- ADHD（注意欠陥多動性障害ともいいます）

長い時間、集中することが苦手で、不注意や衝動性などの特徴があります。知的障害を併せ持つ人もいます。
- LD（学習障害、限局性学習症ともいいます）

知的障害ではありませんが、読む、書く、計算する、推論するなど、特定のことが苦手です。言葉によるコミュニケーションは普通にできます。
- 発達障害
自閉症スペクトラム、ADHD、LDなどの総称です。これら複数の障害を併せ持つ人もいます。
- 知的障害
知的な発達が同世代の人と比べて低く、重度の方では言葉を話すことができませんが、軽度の方は言葉によるコミュニケーションや、ある程度の計算をすることもできます。